英語科学習指導案

日 時 平成25年8月28日(水)5校時

学級 3年標準クラス

(男子15名 女子8名 合計23名)

会 場 3階学習室

指導者 高 橋 明 浩

1 単元名 Speaking Plus 2 食事の会話

2 単元について

(1) 教材観

ア 基本表現

ここで学ぶ基本表現は、Would you like ...? 及びそれに答える Yes, please. / No, thank you. である。Would 自体は8ページ前の Speaking Plus 1「映画へのさそい」において、Would you like to ...? 及びそれに答える I'd love to.と to 不定詞を従える表現として学習済であることから、文法的な説明はほとんど必要がないものと思われる。

イ 題材

日本人であるさくらさんが、ケビンの家の夕食に招待されるという場面で、ホスト役であるケビンのお父さんから食べ物や飲み物を勧められ、それにさくらが自分の好みに応じて答えていくという場面である。「いただきます」で始まり「ごちそうさま」で終える日本の食事と異なる点について、また、男性がホスト役を行うという点について、驚きをもって読み取らせたい題材である。

(2) 生徒観

生徒は、昨年度から習熟度別クラス編成(2分割)で英語を学んできた。今年の4月からは3分割とさらに細分化し、当クラスはスタンダード(中級)クラスである。生徒の授業への集中力はおおむね高く、私語や落ち着きのない行動は見られない。課題や提出物についての心構えを指導したため、期限内の全員提出が当たり前になってきている。

しかし、授業を受ける姿勢としては発言が少ないなど、決して前向きとはいえない。また、 書く力が低めに推移しているために諸テストでは半分程度の得点しか取れていない。そのため、 英語への苦手意識が先行してしまう生徒が少なくない。英語が苦手な生徒は、文字よりも音声 で勝負させる方が楽しく感じながら学習を進める傾向があるため、その点を考慮しながら指導 するのが効果的であるため、本単元は食いつきがいいことが予想される。

(3) 指導観

基本表現 Would you like to …? の導入及びパタンプラクティス (STEP 1) は短時間で終えることができるものと思われる。新出単語の導入と発音練習の後にモデル対話 (本文、STEP 2) に入るが、ここまでずっと教科書は閉じさせたまま授業を進める。

通常の授業とは異なり、この単元では予習(単語の意味調べと、本文をノートに視写してくること)も指示せず、授業本番まで教科書を開くこと自体を禁止する。それは、生徒に欧米のホームスティ先での食事場面を想定させ、日本語で与えられた場面設定に応じた英語表現を生徒から引き出すためである。外国に行った日本人が、自分が言いたいことを表す英語が口をついて出てこないというもどかしさを、教室で体験させてみたい。

そこで、例えば「ケビンのお父さんが『どうぞ召し上がれ』と勧めます。英語で何と言ったらいいでしょう?」というような問いかけを本文の流れに応じて行い、生徒が「こう言うんじゃないかな?」と考えて自由に発言したものを指導者が順次黒板に書き取っていき、最後は音声を聞きながら答え合わせをしていく。その際、例えば「とてもおいしいです。」の表現として教科書では It's very good. が使われているが、It's very delicious. や I like it very much. 等、「通じる、通じない」を観点に多様な表現を許容するとともに、「こんな言い方もあるよ」と積極的に紹介していきたい。

その後、本文の意味を文字で確認して音読練習を行う。この際も、場面を想像させながら、 感情を込めて練習させたい。

最後に、本文の条件を少し変えてペアで対話をさせてみたい (STEP 3)。

3 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

自分の意志を相手に伝えるため、既習事項を用いたいろいろな表現を考えようとする。

(2) 表現の能力

- Would you like ...? を使って人に何かを勧めたり、Yes, please. / No, thank you. を使って人の勧めに応答したりすることができる。
- 場面に合わせ、気持ちを込めて音読することができる。
- ペアになって、モデル対話の内容を置き換えた対話ができる。

(3) 理解の能力

モデル対話の内容を理解することができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

日本と欧米の食事習慣の違いを理解することができる。

4 単元の指導計画と評価規準 (2時間扱い 本時1/2)

時	学習内容	評価規準			
		コミュニケーション	表現	理解	言語文化
1	•Would you like ∼?	・いろいろな英	・気持ちを込め		•Would you like
	と応答の理解	語表現を考えよ	て音読できる。		~?と応答を理
	・対話の生成と音読	うとする。			解できる。
2	•Would you like ∼?	・変更した対話	・基本表現を用	・変更した対話	・日本と欧米の
	と応答の表現	を、友人と楽し	いて、人に勧め	の流れを理解で	食事習慣の違い
	・変更した内容の対	く対話しようと	たり、勧めに応	きる。	を理解できる。
	話	する。	じたりできる。		

5 本時の指導

(1) 目標

- ・既習事項を用いて、いろいろな英語表現を考えようとする。
- ・場面に合わせ、気持ちを込めて音読することができる。
- ・Would you like ...? を使って人に何かを勧めたり、Yes, please. / No, thank you. を使って人の勧めに応答したりすることを理解できる。

(2) 評価

規準		具体の評価規準			
評価の観点		十分満足できると判断 される基準 (A)	概ね満足できると判断 される基準 (B)	努力を要する生徒への 指導の手立て	
コミュニケーション		場面に合いそうな英文	必要な表現を、既習の	場面に会う既習の英文	
		をいくつも表現してみ	英文1文で表そうとす	を思い出すヒントを与	
		ようとする。	る。	える。	
		話者の気持ちを考え、	場面を想像しながら、	個人練習の場面で個人	
±	ギ 目	速度や声色を考慮しな	本文の対話をすらすら	指導を行う。	
表	現	がら本文の対話を音読	音読できる。		
		できる。			
	理解	Would you like ~?と	Would you like ~?と	パタンプラクティス等	
埔田		応答の仕方と、それら	応答の仕方を理解でき	の口頭練習を個別に行	
理		が丁寧な表現であるこ	る。	う。	
		とも理解できる。			

(3) 本時の展開

(3)	本時の展開				
段 階	学習内容	生徒の学習活動	留意点(●評価の場面と方法)		
導 入	1 Small Talk 2 学習課題の	・起床時刻、昨日の様子等、教師の質問に英語で答える。			
5 分	確認	\$ 7	1. ~		
	バーチャルホームスティを体験しよう				
	3 基本表現の 導入	・Speaking Plus 1(p28-29)で学んだ Would you like to ~? の to 不定詞	・板書しながら手短に説明		
		が名詞で置き換えられることを知る。			
	4 パタンプラ クティス	・Would you like ~?を使い、いろいろな物を人に勧める練習をする。	・日本語で cue を出し、生徒の 言った英語を黒板にメモ		
展					
開	5 新出単語	・単語・イディオムの意味を確認する。	・板書しながら手早く		
	6 対話の生成	・教師の日本語を聞き、英語でどう表現したらいいかを積極的に発言する。	・対話ごとに整理しながら板書		
40 分	7 答え合わせ	・対話を音声で聞き、実際にどう言っていたかを確認する。	・許容される(通じる)英語は 積極的に認める		
	8 音読練習	・教師の後について(和訳付き)・教師の後について(和訳なし)・教師の後について(感情を込めて)・役割ごとの読み(教師と→性別毎)			
ま	9 文化比較	・「いただきます」「ごちそうさま」に当 たる英語がないこと			
とめ		・「いただきます」「ごちそうさま」「お			
5		はよう」「こんにちは」「さようなら」			
分		の語源			